（一日夕刊）

磐城新聞

休刊 大祭第一第三日曜
定價 壹枚二錢、壹ヶ月五十錢、郵税十錢
廣告料（一行五十錢 場所指定二十錢增）
發行兼編輯印刷人 遠沼龍哺
發行所 福島縣平町田町拾六 磐城新聞社 電話五六四番

普通選擧（二）

千葉學人

何故選擧權が存在するか、この問題については從來から多数の學者政治家が種々の方面から論じてゐる。然しながらこれ等の議論を綜合分化する時は、選擧權は國民固有の權利なりとするものと、然らずとするものとに大別することが出來た

（一）先づ非固有權説の主張するところは次のやうである。曰く選擧權は人民固有の權利ではなく或る特別の目的若しくは事情により國家が國民に附與したものであるこの學説に屬するものに報償説及び適任者選拔説がある。

（イ）報償説、論旨に曰く選擧權は國民固有の權利ではない。國民が何等かの機會において國家に對し特種の勞務その他の提供をなしたる場合に、國家は報提としてこれに選擧權を與ふるものであると、我國の政治家中兵役の義務を終へたる者又は一定額の納税をなしたる者に選擧權を與へよと論ずる者あるは暗に報償説を唱へてゐるものと云つてよい。

本論は國家と國民とは相互的に利益の交換即ち給付とこれに對する又對給付との交換に依つて結合せられてゐる團体であるとするエクイバレントセオリー流の國家觀に寄せられた誤説謬論であつて、その不可なることは何人と雖も了とするところであらう。その國家と國民とは全体と部分との有機的不可分關係を有するものである。國民が國家に貢獻するは利益によつて結合せらるゝがためではなく貢獻そのものが國家の有機的組織体の一部分たるによるこそ恰も手足が一人格者の意思の爲めに働くが如きものであるとかく國家對國民ちょが如き二個利人格の對立あつて、各自に給付を交換するものではなく、國民の貢獻其ものは國民其ものゝ自目的であり、決して他目的ではないのである從つてかゝる國民の提供に對し報償としての國家の權利附與はあり得ない。

尤も議會制度發達の沿革から見て、報償説は根據がないではない即ち今日の議會制度は英國に濫觴してゐるのであるが、當時の歐洲諸國は所謂國家を國王の私有財產視した時代であつて國家の經費は皆國王の私財から支拂はれてゐたのである。その後國爭の多端と經濟的發達の趨勢とは國王の私財のみでは國費支辨に不足を感ずるに至り、遂に地方の富豪を召集し或る一定財の提供を承認せしむるに至つたのである。これ當時の富者が政府の財政問題に容喙する權利を獲得しこれが實行のために自己の代表者を中央に送るてふ民選擧員の發生を見た因緣である果して然らば當時の選擧權が貢納金に對する報償たる意味を有した事は確實であるが、時代の變遷と國家理論の推移せる今日、かゝる報償說の是認すべからざる事は多言を要しないのである。

（ロ）適任者選拔說。この説は元首が特定の諮詢機關たる議會の議員として適當なる人物を得るために、人民一部の公選なる制度を認めたる結果、それ等の人民にのみ附與せられた國法上の反射權であるとするのである。之は一部の保守的政治家が憲法の解釋と運用とを狹義に解せむとして唱へた議論であつて、現在の政治現象としての選擧權の根據を説明し得たものと云ふことが出來ない。何となれば（一）若し選擧權を國家命令の反射權とする時は現今一般民衆が要求しつゝある選擧權擴張の意味をどう解釋すか（二）議會を以て單なる官府として天皇の諮詢に答へ奉るものとする時は、樞密院と如何なる性質上の區別があるか結局兩者は質的に同様のものであるとの結論に到達すべく、隨つて現今政治下一般に認められてゐる議會の特質を無視するに至りはせぬか等の疑問は交々起つて來るのである

（三）要するに非固有權說は少くとも現代における政治上の實際にたいて民衆が要求しつゝある選擧權の本質を明かにし得ないものであつて、この要求を生かすためにはどうしても選擧權は國民の固有の權であるとせなければならない茲に注意すべきは固有の權利なる意味である。およそけん利は本質上國法が認めるから存在するのである、只國法がこれを認める際に國民が先天的にけん利の基礎たる實質を有してゐる場合と然らざる場合とがある。その有してゐる場合を稱して國民はけん利を固有してゐるといふのである

※明日の吉凶※ 舊暦八月七日 新暦九月二日

▲一白 油斷の生じ易き日氣を緊めて咎なきを期せ▲二黑 樂の道を撰みても知らず識らず苦に陷る日▲三碧 退縮せず萬事進んで効果あり但し細心なれ▲四綠 八方より誘惑の手の伸び來る日動は凶なり▲五黃 自盛の氣を生ずる時は物事失敗に歸すべし▲六白 口故に大事を敗る事あり默するか安全第一▲七赤 浮薄の潮流に捲き込まれぬ樣注意すべき日▲八白 驕ぎに居て足元の崩れを生じ易し內外注意▲九紫 樂観は大敵努むれば大抵の難事も達すべし

藤沼醫院

講談

血を洗ふ（128）

高橋掬太郎創作
布施半八郎揮毫

怪人は誰？

吉村玄蕃は右腕と左足を斬り落された重傷で一夜中街道に打ち倒れてゐたため血が夥しくさしも剛氣な出彼も滿面血の氣が失せて蒼白となり聲をかすかな虫の息であつたが苦しきを耐へて昨夜の怪人の樣子を語つた。

「主君怪人と申すはたしかに主君に怨を抱く者に相違ござりませぬ」

「な、なんと——」

昌康も側に從ふ早間重太夫も思はず驚きの聲を發した、玄蕃の枕元には昌康と重太夫と二人だけであつた

「怪人は立去る際に申しました城中に歸つたなら昌康によく申せと」

「ナニ？我に申せとな……」

昌康は驚愕に顏色を變じて居た

「はゝッ」

玄蕃は苦しげに息を吐いた。

「して何んと申したのぢ、氣を確かに申せ」

昌康は玄蕃に力を附けながら訊ねた。

「我はお家に仇なす惡人輩を天に代つて誅戮すべく鞍馬の山から來た天狗だと」

「ナニ鞍馬の山から來た天狗だと……何をば馬鹿な」

昌康は叱りつけるやうに打消した。

「たッ確かに申しました」

玄蕃は苦しき息、兼ねていつた

「してそれから何んと申した？」

昌康はつゞいて問ふた

「兄君成昌殿を殺してお家を横領なしたる大逆人の昌康はじめ……」

「何んと——」

昌康は滿面に朱が注いた

「不忠の奴等を片ッ端からかうしてくれるやがては昌康の首を必ず申受ける覺悟をしてたれと申せと、も、申しました」

玄蕃は辛じて云つたあとは力が抜けてかつくり息もたゆ／＼であつた。

「むゝ扨ては成昌に忠義を立て我等に仇をなす奴と相見ゆた」

昌ヤスは全身を憤怒に打ちふるはせた。

「わ憎むべき曲者にござりまするな」

重太夫も拳をふるはして云つたが彼の面には恐怖の色がありく～と現れて居た

「しかし一体何者であらう」

昌ヤスは不審の首をかしげた

「左樣でござりまする何れ成昌殿に忠義の武士と相見えますが」

と重太夫は昌ヤスの顏を打ち守つた

「それは云ふ迄もない判つてゐるが誰れであらうか」

「尙家中の者でありませうか」

「うむ何づれ尙家中の者に相違あるまいが餘程の腕の出來る者と見えるな」

「左樣でござりまする吉村氏さへ敵せぬ程の腕前の者はさあ……」

「思ひ當らぬわ？……」

「若しや……」

「神部……」

「ナニ——」

「當家中で吉村氏より腕前の傑れた者と申せば神部清左工門より他あるまいと存じまする。」

「うむ！」

昌ヤスは頷いて考へた

「神部清左工門は成昌殿に忠義の者でござりまする」

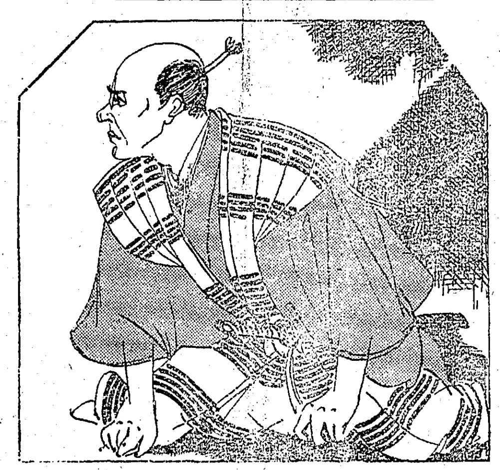
「いかにも——」

「今は我々に無二の味方の如く見せかけては居りまするがそれは表面丈の事、內心はどんな復讐の企てを有つてゐるかも知れませぬ」

「左樣ぢや」

「のう吉村氏その怪人の姿は若しや神部氏に似てはゐなんだか？」

重太夫は玄蕃の肩の手をかけてゆするやうにしてとふた、けれど玄蕃は聲を發する力もなかつた。



營業品目
絹糸、絹紡績
綿糸、染糸、組紐
漁網糸、人造絹糸
カタン糸、輸出用加工糸
真綿、其他糸物一式

東京市日本橋區通油町
株式會社 藤掛商店
電話浪花三五一番
振替東京三三四〇番
糸界の羅針盤糸紐通報御一報次第直送

小店員募集
十五才以上十七八才迄 五名
小學校卒業程度御希望の方磐城新聞社御出で下さい。委細面談

巨彈連發大名篇公開

プログラム

連續活劇 アリーンフイ孃 ブルースゴートン氏共演
秘密の扉 第五篇第六篇
事件益々白熱に迫り暗夜に起る爭鬪？……

◎海軍省特別 佐世保鎭守府御後援 製作 大映畫
佐藤圓治 谷幹一 德永良子共演
殉國美談 勇敢なる水兵 全八卷
歌の主 松島艦ノ乘組員三浦虎次郎の血淚悲壯の殉國誠忠記

圖村上浪六先生原作講談倶樂部連載
河部五郎 櫻木梅子 中村仙之助 尾上多見太郎 主演
元祿遺聞 妙法院勘八 前篇十卷上映
大江戸八百八町の花と謳はれ勇みに勇み情けに脆き男の中の眞の男

九月一日ヨリ 土日曜 學生デー
平館

內科 小兒科 皮膚科 花柳科
平町舊城跡（城山）
青沼醫院
醫學士 青沼淡夫
電話四〇三番

皇漢藥主劑
家傳靈藥 リウマチ湯
てがるになほせ
神經痛リウマチ
せんき腰足の痛
▼針や灸溫泉つけ藥で治らぬ人
▼いかなる慢性にも効く
▼十人が十人性に合つて喜ぶ
全快せしもの數知れず、一日も早く服用せられよ
一定價 一圓、二圓、四圓
代理店 山野邊藥局 平町五丁目角

鐵筋コンクリート
鐵骨組立
和洋建築
文化式建築
設計監督
土木、建築、請負業
合資會社 丸三森川組
社長 大森鎭平
東京日本橋南茅場町二〇
電話茅場町66四五二番

ホシ美白粉

最高の白粉

どなたの肌をも自然的に美化し、氣品と艷麗に滿ちた化粧映のするホシ美白粉こそ又、絶對無鉛にて、衛生上よりも、最高の白粉と賞美さるゝものであります。

ホシ美水白粉 白・黄・肉色
ホシ美煉白粉
ホシ美固煉白粉
ホシ美粉白粉 白・肌・肉色

東京 星製藥株式會社 大阪

明年春に備える 有權者名簿作製
町民に資格を申告させ 新手の調査方法

來る縣會議員の選擧が終ると復たすぐ明春執行さるる衆議員の總選擧に備へるの爲め早くも平町當局は伏見町長以下必死となつてゐるが何しろ新選擧法に依れば單に帝國男子にして滿廿五才に達し其の地に一ケ年以上住居の事實あるものは全部が有けん者となり得る事とて平町のみに於いても新有けん者が何程あるか一寸相像が付かないそこで町當局では近く全町に亘つて選擧資格の申告用紙を配し名簿調製の參考とする事に決定した即ち選擧法に依つて定められた選擧けんを有すると思惟する者は配布された用紙に適當に記入役場に提出すれば役場當局が此れに再調査をなし選擧人名簿を調製するのでそれには現在の役場吏員のみでは不充分である爲め今度の試みは各方面から非常に喜ばれてゐるが伏見町長は『何分御存じの樣に切りつめた吏員で新法に依る澎大な數字を示す名簿の調製に當る事は無理である從來これ等の問題につき不平が起きた實狀から觀て切角新法に依つて與へられた選擧けんを調査の不充分等の理由で名簿に洩れる樣な事があつてはと考へた結果、申告用紙を配布する事になつたから當局の意を諒とせられ進んで申告して戴き度い』云々と語つてゐた

必勝の意をこめて 郡下青年の意氣
來る四日磐中グランドで 青年團體育大會

石城郡聯合青年團體育大會は例年の如く來る四日磐中大グランドに於いて華々しく擧行される事既報の如くであるが今大會は縣主催體育大會の豫選となるので郡下各町村青年團では必勝の意氣物凄く目下猛練習に沒頭してゐる因に同大會役員は次の如く決定した

△總務 大森勇、西山直三郎 △受付 紺野勝治、緑川喜三郎、齋藤晃、吉田直文 △來賓係 山崎光雄、三森虎雄、舘野癸三郎、曾我直治、藤田貞雄、五十嵐新平 △庶務會計 清邊博、紺野勝治、川崎文治 △救護係 大森勇、陸上競技部 △部長 小野寬美、審判係長小松武雄 劍道部△部長水本泰、審判係長鈴木忠正 柔道部△部長橋本芳太郎 審判係長鈴木寅之丞 相撲部々長馬目武之助 以上

鹿を逐ふ人々（一）
候補者の裏を覗ねて 鈴木辰三郎君

來るべき縣議戰に當り石城より鹿を逐ふ政、民、中の各派候補者の裏をのぞいて無遠慮に書きなぐつて見る、若しお差し障りの點があつたら平に御用捨を乞ふ

△新しい「黨人」の典型を求めるならば先づ鈴木辰三郎氏に指を折る、氏は前回に惜や落選しても爾後の四年間を引續いて縣會議員より以上の努力を拂つて來たことは除り他に多く類がない、彼が百方面に對す砕身の努力は敵も味方も別ちなく一樣に感服する處、さればこそ今回の政戰には事前に既に安全な一人として指を屈せらるゝも宜なる哉である之れ即ち氏が半生の苦勞が酬ゐられた事を慶福としたい

△短軀痩身、白面黑髯、彼は稀に見る好男子、然も其膽は鐵の如く、即決果斷秋霜の如き反面に圓轉滑脫春風の座に滿つる概がある座談に巧妙なる應酬は移して壇上の演説に卓越す、詳に政治の表裏を解するが上に銀行專務として經濟にも明かるい、之を兩輪と作な議場の人となる、同志、冷熱の調和劑としても乃至、闘士としても謀將としても彼の前途は實に本縣政治界の雄を推するに必ずしも誣言であるまい

△由來、鈴木氏は白井大御所に聯がる中野浩忠氏直系、中野氏が永き政治生活に代議士級を以て過せしれたるは遍く知る處、その親分肌合と豪放闊達の氣象と辛辣なる雄辯と手腕とは今も噂に殘る處。これ等の大部は實弟井上茂作氏に傳はらずして寧ろ鈴木氏に傳はつたと見てよからう。同時に英雄の色を好む點も一唯それ鈴木氏には中野氏ほと辛辣味が缺けてゐるがその代り中野氏よりも一段の數字あり一段の工夫がある

△と云へば中野氏以上になるかも知れぬが中野氏に比して一切が小く狹く細く出來てゐる事は詮無い。中野氏の線は太く荒いが鈴木氏の線は之に比して淺繊い。譬へば『子供が大身の槍を使ふ』にも擬す可きか中野氏に比べて長短共に避け難い所はあるが鈴木氏は上京すれば本郷の白井大御所に、出稿の時には中野氏の別邸を離れざるあたりの人情味は清く美しい

△石城政友派、人材、雲の如し年歯の少壯なるに見て草野、諸橋、小野、古川その他みな出色の新人である、けれ共この人々は黨務に熟さない。黨務の取扱ひは一種の技術である、學識才幹、威望のみで充分な物でない。柔剛、機に臨み變に應じて不可言のコツが入用である。眼高手低の妙運用が肝要である。志す方面は多趣でなければならぬ要領を得ぬ中に要領を得さしめなければならぬ。

△飽くまでも愛郷の心に富み誠實生一本の鈴木氏が斯の圓熟せる頭と口と足とを以て縣政に參與するを得せしめたならば必ずや見る可きものがなくては止まぬであらう

全奥州を股に掛けた 貴金屬專門の賊
若松を荒して湯本に流れ 平署近來の捕物

若松市大町貴金屬商川俣普四郎方に去る八月廿五日午前〇時から二時頃迄 間に賊忍入り表店頭の飾窓から純金製現代角形及丸形指輪一打價格三百六十餘圓外十種の貴金屬總價格見積八百餘圓を窃取逃走した稀代の怪盜があり若松署は必死犯人捜査中犯人は逸早くも當地方に入込んだ形跡があるので平署では管內全署員に對して**犯人檢擧**の手配を命じ青田部長以下各刑事は全力を擧げて八方活動中のところ昨三十一日午後四時頃湯本町驛前通りを徘徊中の廿五六才位の擧動不審な男を青田部長が發見同町駐在佐藤柳原小山田の三巡査の應援を得て逮捕本署に引致の上嚴重な取調の結果此奴は新潟縣西蒲原郡內野村大字內野村生れ當時若松市針屋名古や町菅井辰太郎方居住自稱小林一馬 金澤喜久治（三六）で前記犯行を逐一自白したが更らに取調の結果此奴は本縣は勿論奥羽六縣新潟炎越群馬栃木等東京以北の全縣を股にかけ貴金屬を專門に荒し廻つてゐた怪盜で約三萬圓と言ふ巨額で平署近來の大捕物である

北海巡查試驗
十九日平署で執行

北海道廳では目下同廳巡査の募集をしてゐるが本縣では福島、白河、平の三警察署で任用試驗を擧行する筈で平署は十九日午前八時から科目は算術、讀書、作文地理、歴史で當日出頭の際履歴書願書を携帶すべしと

本郡下昨年の 米穀實收量
概して好成績

石城郡下の昨年中に於ける穀物耕作反別並に實收獲量を平穀物檢査所に調査したところに依ると總耕作反別米八萬四千五百八十町步に對して實收十五萬五千四百八石麥二萬一千六百六町步に對する實收四萬四千六百七十九石大豆九千六百三十一步に對する實收一萬四百一十七石で各れも好成績を見せてゐる

新田町を飲み廻つた 貯金騙取犯人
小川生れの國井三郎 助川署に捕はる

常磐線助川驛頭に於て川崎驛取締巡査に捕はれた多賀郡日高村字木津郵便局の三百圓貯金騙取犯人石城郡上小川村大字上小川生れ前科二犯國井三郎（三三）に就て助川署は引續き取調中であつたが三郎は幼少の頃より盜癖あり十七歳にして**汽車中に**於て乘客の際を窺ひ婦人の金側時計や金品を窃取した以來箱稼ぎ專門となり大正十四年九月より相馬刑務所に一ケ年服役し昨年九月出獄したが一定の職もなく各地を放浪し偶平町新田町の花柳の巷に入り酒色に耽り去月十五日自家の木炭四十俵を盜み出し平町の某商店へ賣却し新田町料理店に二日間流連十七日多賀郡川尻に來り避暑客の雜踏にまぎれ毎日海水浴を爲す**風を裝ひ** 夜は海邊の小舟に假り寢し十九日日高村田尻方面徘徊中家人の不在中であつた茅根泰方へ忍び入り簞笥の小抽斗から三百七十餘圓記入の郵便貯金通帳と實印を窃取し直に小木津局に至り本人に賴まれたと僞り二百圓を拂ひ戻し逃走して逮捕されたものである

四倉繭市場の 商況益々好化
最近取引狀態

石城郡有限責任販賣利用組合繭會にかゝる四倉町繭市場に於ける廿九日の出荷數量は八貫百六名にて八百九十六貫五百匁代金三千八百五十一圓八十四錢なりしが內ゆ四十二圓九十六錢高値四十八圓五十錢安値三十二圓にて商況益好化し貝入も中村町片曾根、片倉組合三春町林組等出張して活氣を呈してゐた

鎗と鐵砲
（投書歡迎）

乘物漫談

◇現代のやうに交通機關が發達した結果は勢ひそこに交通道德とか制限とか罰則とか生せざるを得ない

◇毎日の新聞紙は一として交通事故の幾つかを書き出さぬものがない自動車自轉車、オートバイ其の他あらゆる交通機關は呪咀されたるそれ命がけのそれである、事故の原因總てが操縱者の責任なりとは言はぬけれども定員外の乘員を操縱席迄壽司詰にして疾走する結果操縱難を生じ事故を生ずる事例に明々白々たる事である寧ろ事故なきを不思議とする位である

◇先達ての新聞に警察署長の言として速度云々の件を報じてゐるがその中の一項に必ず定員外の乘客制限と言ふ事を嚴重になされん事を望むものである

◇又オートバイ單車（サイドカーなきもの）は從來無免許運轉とかの結果頗るあぶなつかしい運轉をする素人がこれ見よがしに疾走する生意氣振りがとんでもない事故を起す此等の件に對しても何とか取締るべき必要があらう

◇尙自轉車の警察番號であるけれども埃と油にまみれてわからずになつて遠くから否一尺寄つても識別し難きものがある中には白ペンキでこて／＼塗り立てた奴があるかと思ふとボールが紙を代用させたものがあり何の爲に斯樣なものを付するか？盜難除げか又は單なる見榮からか それでも年に一度調ると云ふわけでもなくつけたきりのものが果して右樣の効果あるかを疑ふ

◇以上の事を喋々して當局の一考をわづらはし度い（岩間生）

十月上旬を期し 郡下少年庭球
優勝旗の調製も出來 各校とも猛練習

本社主催郡下少年庭球大會も愈々回を重ねるにつれ各方面の期待を惹いてゐるが來る十月上旬を期し第六回大會を例年の如く平町商業學校コートに於いて開催する事に決定既に優勝旗の調製を了したが前年優勝した好間校を始め郡下各小學校とも目下必死の猛練習中で各方面の人氣は今や絶頂に達し當日の盛會を豫想されてゐる

約二割方下つた 平町の呉服類
衣更へを控ねて 各商店共大多忙

石城郡地方は一昨日の降雨以來俄に涼風が立つて來たいくら不景氣でもこうなると衣替への事が氣にかゝりぼつ／＼用意をせねばならぬ季節となつたので平町の**呉服界を**調べて見るとさすがに財界不況の祟りを受けて一般に低落じ昨年から比較すると木綿物は二割安、絹織物は三割安と言つた標準であるが合着物とセルの如き原料及生産狀態需給關係からして當然今秋には相當の上伸相場を見せるに至るであらうと當業者間一般に觀測されてゐたものか不景氣の反應を受けて伸び惱み依然七八圓搦みより上物にて十圓見當を居据はりモス類も同樣商狀を辿り需要者萬能の時機であるが絹物木綿物共に原料及生産費から**採算する**時は到底永續し能はざる極度の安値見出で原綿、生糸等作柄爲替等の關係から當然反撥相場の襲來は免れざるべき模樣なれば本季節に入ると共に相當の活氣を呈するに至るであらうと見られてゐる

麥作の需要を前に 肥料昂騰の氣配
これからは現金扱ひ 問屋筋稍々樂觀

平町に於ける肥料の動きは目下需要季節をこえ頗る閑散狀態にある、これがため相場の如きも前月並に前々月に比較して下落又はたゞち合の傾向にあり先月來に比し大豆粕が二圓十五錢から二圓十錢過隣酸が一圓六十五錢から一圓六十錢內地油粕が一圓六十錢から一圓六十五錢に支那油粕は圓が四圓八十錢と下落し鰊〆粕も五圓たち合となつて居る然し九月に入れば麥作のため**需要期に**入り相場も稍や昂騰すると見られてゐる在荷は一般に手薄であるがこれは農家の不況から肥料代の未拂が多く從つて問屋筋への支拂が圓滿を缺いた爲めの送荷澁滯に依るものであらう、右につき肥料商側では『從來各肥料商ども現金取引をせす最初から掛で賣るつもりで稍々高く賣つてゐたが近來は東京の問屋筋が八釜しく現金でなければ**荷を送ら**ないので此の秋ごろからは主として現金で取引されるやうになると思ふ、さうすると値段も從來からは可成り安くなることゝ思ひます』といつてゐた

平酒無デー
各種の催しで

平禁酒會では……祭記念酒無しデーに役員總出動で磐中、高女其の他各學校に禁酒講演を催したが尙全町內に亘つて禁酒宣傳のビラ數千枚を配布した

記者募集
磐城新聞社

年齡二十才位の身体強壯にして中學三年程度の學力あり市內に住居するもの一名至急募集す、希望者は午前九時までに自筆履歴書持參本人來談あれ

紅燈街

新田町久本から『ひさご』がた披露目をしたからつて新妓ではない先達て以來休むでゐた古妓のひさごかまた稼ぎ初めました、昔しからの御ひいきの餘慶を持たれましてどうぞお見捨てなく頼ん申す

平町田町
高久病院
電話五一三番

ビーズ手藝講習會
期日 九月二日 九月六日（前九時…后四時）
講習科目（手提袋、蟇口、電燈カバー 帶止、羽織紐、扇子紐其他）
講師 東京讀賣新聞社囑託講師 野田春子女史
會費一日 金參拾錢
製品ハ三丁目三井呉服店々頭ニ陳列シテアリマス、ゴ自由ニゴ覽下サイ
材料ハ讀賣新聞社直接安價販賣致シマス
申込ハ同校側ハシモトヤ糸店內
主催 私立藤田裁縫女學校

創業三十週年紀念謝恩
自信アル一の井洋食普及デー
九月一日ヨリ向一ケ月間に勤致します
高級洋食 一品 金十五錢均一
洋食宴會 仕出し
平町田町 一の井
電一六七番

齒科口腔一般
診療時間（午前七時ヨリ 午後八時マデ）
但シ急患ハ此限リニアラズ
平町南町成田山前
鈴木齒科醫院
齒科醫 鈴木五郎

診察無料
如何なる重患でも直ちに癒る三丁目の大谷へ御出下さい
院長博士 敬白
大谷時計病院
電話一九番

入院隨意（自炊の便あり）
外科專門
平 南町
上田外科醫院
電話一二九